

# 月影



第71号

雨の日は  
雨の日の生き方



令和三年七月一日発行  
浄土宗西山禅林寺派  
常林院

晴れの日は晴れとともに  
雨の日は雨とともに

楽しいときは  
楽しみとともに

悲しいときは  
悲しみとともに

出会った  
ご縁を受け入れて  
今日も生きていく

# お盆の

# 作法

## お盆とは



お盆は「盂蘭盆会」といい、お釈迦さまの弟子、目連尊者もくれんそんじやが餓鬼道がきどうに墮ちた母を救った「盂蘭盆経」に由来するといわれています。

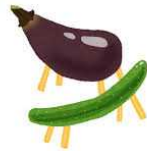
お盆は、ご先祖さまを供養するとともに、祖先から自分に続く命のつながりと縁について考えるいい機会となります。

## お盆の期間

本来、旧暦の七月に行われていました。

新暦になってから新暦の七月、または一か月遅れの八月に行われていきます。一般的に十三日から十六日までをお盆といえます。

## 迎え火と送り火



十二日の夕方にご先祖の「精霊」を迎えるために、玄関でおがら等を焚きます。また、おがらの代わりに線香をつけ、その線香を仏壇へ供えて迎え火とする方もおられます。

十六日は精霊が再びお浄土へ帰られる日です。

道に迷わないように送り火を焚きます。

## 初盆



葬儀が終わり、中陰の四十九日を勤めた後、初めて迎えるお盆を「初盆」と呼びます。

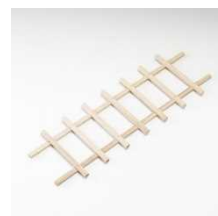
お浄土へ往生された亡き人が、亡くなってから初めて我が家へ帰って来られる大切なお盆なので特に丁寧ていねいに供養します。

## 初盆の祀り方

初盆の祀り方は、例年の祀り方に加え、提灯ちようちんを

灯し、おがらで作った梯子はしごを仏壇と精霊棚（供物を置く机）の間にかけてます。

## おもてなし



おがらのハシゴ

お盆になると人々は田舎へ帰省します。同じように、お浄土にいる精霊もそれぞれの家へ帰省するのです。

帰省している間、精霊に食べ物（おがら）を供えたり、お経をあげて丁寧にもてなすことは、精霊も喜び、私たちの心も豊かになります。

# お盆の迎え方～常林院編～

お盆の迎え方は、地域やお寺によって違います。下記は当寺の供養の仕方です。丁寧に心を込めて供養しましょう。

はかえこう

**墓回向** 8月7日

なぬかぼん

七日盆といえます。お墓の掃除をし、ご先祖の精霊を迎える準備をします。墓前で住職がお経をあげます。

お寺で水塔婆を受け取り、家の仏壇に供えます。



お参りの日時はハガキでお知らせします。

たなぎょう

**棚経** お盆期間中

各家に帰っておられる精霊を供養します。お仏壇の前で住職がお経をあげます。お仏壇の前の供物等をお供えする精霊棚しょうりょうだなの前で読経するので棚経といえます。



仏壇に供えていた水塔婆をお寺に預けます。法要中、水塔婆の戒名を読んで供養します。

ぼんせがきえ

**盆施餓鬼会** 8月16日

せがき

お施餓鬼と呼ばれます。ご先祖さまが再びお浄土へ帰られる16日。本堂で住職と組寺4人で、申し込まれた各家のご先祖供養をします。法要後、施餓鬼旗せがきばたを渡します。旗はたはお守りとして仏壇や玄関に飾ります。

本堂のロウソクを送り火とし、ご先祖さまが無事にお浄土へ帰るよう皆で見送ります。



施餓鬼旗

# 仏教歳時記



さはさはと蓮うごかす池の亀

鬼貫

池の蓮の葉がさわさわと揺れている。よく見ると、蓮のまわりを泳いでいる亀が動かし

ている、という句です。  
極楽にはいろんな色の蓮が咲いています。

人がお浄土へ往生する時、  
迎えに来られた仏さまの蓮の  
台に乗って極楽へ行きます。

そして、極楽の池の蓮の花  
からお浄土に生まれるのです。  
蓮は仏教と縁の深い花です。



## 雑記抄 くお地藏さんく

子どもの頃の夏休みの思い出の一つに地藏盆があります。地藏盆の意味も分からず、福引などの催し物を楽しんでいました。▽地藏盆の主役であるお地藏さんは子どもの守り仏です。幼子が亡くなった時。子の霊は三途の川の川下の賽の河原に集まるそうです▽子たちは父母に会いたいと泣きながら河原の石を集めて、一つ積んでは父の為、二つ積んでは母の為と石を積みみます▽ところが、日が暮れると地獄の鬼が現れて「何をしているっ。娑婆にいる親はお前たちの

せいで嘆いているぞ」と積んでいた石を金棒で崩します▽そこへお地藏さんが現れ、鬼を追い払い、子たちを助けるのです。お地藏さんは「この世とあの世はとても遠い。親に会いたいと思っても会うことはできない。だから、私をこの世界の父母と思いなさい」と幼き子らを抱きかかえて慰めました▽去年は、地藏盆もコロナで中止や縮小になりましたが、お地藏さんはお寺よりも、町の路地や道端の身近な所にたくさんおられます。お地藏さんはいつも子どもたちを見守っておられるのです。